

令和元年神奈川県議会第三回定例会 経済・産業振興特別委員会

令和元年 11 月 8 日

鈴木委員

まず初めに、公明党を代表しまして、台風でお亡くなりになられた方々、また被災された方々にお悔みとお見舞いを申し上げます。

それでは、早速、質問します。

2点大きく質問をします。第1点ですが、今もお話がありました10ページの中にある、また私の地元であります、鶴見が一番気にしてきました鶴見・日吉間、これはグリーンラインだと思いますが、横浜環状鉄道の新設ということで書かれていました。そこで、二つだけ質問したい。

一つは、基本的に、今、資料で見たときには、2016年に198号を国土交通大臣が出している。2016年にして、一応、目標年次が2030年だったのです。これは少なくとも、私は毎日新聞等々またテレビ、メディア等を見て、この報道は見たことがないのです。一つはなぜ、ここでこういう報道が出されなかつたのか、二つ目には、198号に更新がなされたということは何を意味するのか、この二つ教えてください。

交通企画課長

国土交通省の答申ですが、今後の整備される路線というところで、神奈川東部方面線につきましては、当時、既に工事を着手しておりますので、そういう関係で、神奈川東部方面線につきましては、198号に載っていないという形になります。こちらにつきましては、リニア中央新幹線もそうですが、今後計画をしていく路線が載っていくというところが、まず一つです。

鈴木委員

手短にお願いします。要するに、ここに載っている198号の中に、何で横浜環状鉄道が載っているのに、メディア等々で今まで何も報道されなかつたのかと私は聞いているのです。二つに、ここに載ったことによって、何が提起されたのか。2030年の目標、答申の中に書いてありますが、それが本当に実現に向けて進むのか等々のことだけお答えいただきたい。

都市部長

まず、メディアになぜ取り上げられなかつたのかということになると思うのですが、答申が発表されたときには、メディア等でもあったのではないかと思うのですが、その後、具体的な進展が目に見えてきていないということが1点あると思います。この答申自体は、東京圏、首都圏での一つの目標年次を設定した際に、どういった鉄道網がよろしいのか、そのあり方を答申したものですので、そういう意味では、それに向かって、それぞれ当時、要望した者がそれぞれいらっしゃるわけですから、具体化に向けてそれぞれ取り組んでいくものと理解しております。

ですから、その辺の具体的な取り組みが、実際にはまだ具体化していない中で、メディアでもなかなか出てきていないのではないかと推察しているところです。

鈴木委員

ということは、あなたの今の答弁をお聞きすると、基本的にはこの紙ベースだけでもって、一応案だということなのですか。

都市部長

もちろん紙ベースということではなく、それぞれ要望した経緯があるわけですから、計画に位置づけた上で、それぞれ主体となるところが具体に取り組んでいくというところだと思います。

鈴木委員

一言、皆様方にお話を申し上げます。

こういう委員会資料としてこうやってきちんと出てきているのであるならば、具体的にどうすることをするのか、今の質疑もそうですが、出てきたら、私たちは期待するわけです。それを今ここでもってどうなのかわからない、一応紙ベースと言ったら、今ここでやってる審議って、何のためだと私は思うわけです。それを一つ、まず頭で言っておきたい。あなた方が知っている情報ではなくて、私たち政治家として実現しなければならない。それで来たら、ある日、突然、私も、書類を見て、横浜環状鉄道、グリーンラインなどと出てきているから、このような具体的なこと、もし私が鶴見の中で話をしたならば、鶴見区民がみんな喜びます。時間がないので、要望しておきます。一つ一つこういうものを出すときには、きちんとした、何の裏づけなのか、こういうことをしたものをしていただきたいと要望しておきたい。

二つ目、きょうは相模原の方が多くいらっしゃるから、私も地元のネタはこれでやめて、相模原のリニアを聞いて、一つだけ皆さんに聞きたいことがある。先ほどから順調だ順調だとおっしゃっている。ところが、皆さん方が出しているリニア中央新幹線建設促進神奈川県期成同盟会で出しているこのパンフレットを見てみると、先ほど、課長から川崎で5カ所、相模原で4カ所、非常口の話をされていた。少なくともこのパンフレットの中を見ると、全部、川沿いに非常口がある。特に、串川で、失礼ですが、本当に痛ましい事故が起きてお一人の方が亡くなられました。それまでのひどい状況がある中で、非常口4カ所に何も被害がなかったのか。みんなこれを見て、ある意味では、相当山岳地帯を通っていて、いろいろなところを通っている。非常口そのものも、見た限りは大変精巧につくられていて、ここから人の出入りが行われているはずです。それが何も被害がないとは、私から見たら信じられないのですが、現状はいかがなのですか。

交通企画課長

非常口の工事で今回の台風によって被害を受けたという報告は受けておりません。

鈴木委員

被害を受けてないということは、あなた方はそこを確認していない、JRだから確認してはいけないことなのですか。先ほどからすごく気にかかっているのですが、全て、工事等々、責任はJRとあなた方はおっしゃっているが、私は少なくとも被害を受けていると聞いているから、お話ししているのです。もし被害があったとしたら、どのような被害なのか。あなた方が言っている2027年

開通、順調にいっていますという答弁はおかしいということになる。先ほどからずっと気になっているのは、全ての責任はJRということです。ここでやっている審議は、あなた方に、実際のことを聞いているわけだから、それに対しで聞いておりますでは済まないでしょう。だって、先ほど、市長もお見えになって、こちらにいらっしゃる皆さん方も、いろいろな被害を受けていらっしゃった中で、ここだけ何の被害もないなどあり得ないことです。先ほどから順調です、順調ですとおっしゃっているので、その言質だけをしっかりと捉えた上でもって、どうなのかと聞いているのです。いかがですか。

交通企画課長

リニア中央新幹線につきましては、確かにJRの事業です。ただ、県内で大規模事業というところで、県も整備促進という立場でかかわらせていただいております。当然ながら、今、委員がおっしゃられたとおり、現場で何が起こっているのかということは、逐一情報が入るようにはなっております。当然、委員がおっしゃられるように、何かあれば県は調整役として取り組まなければいけないと考えております。

鈴木委員

私はもうこれ以上、いろいろ申しませんが、常識で考えると、串川でこれだけ大きな被害があつて、見てみると、相模川でも発展しているところにもある。バックウォーターやいろいろな問題が今あつて、なおかつ地下なんか今、マンションなどの電源が地下にあることも大変な問題になっている。そのような中で、何もないなどとは、私には正直言って考えられない。常識で考えて、そう思いませんか。地下の中にあって、もし万が一串川があふれてこういう形になったとしたら、どういう被害があつたか、あなた方がここに入つて見ればいい。それがあなた方の仕事なのではないのか。先行会派の質疑に対して、それはJRの責任ですからとおっしゃった一言が、すごく冷たく私には感じたわけです。

県民もまた、相模原の皆様方も、みんなこの開通を楽しみにしていらっしゃる。その中、現実は現実として、神奈川県として、逐一情報を、こういう台風等があつたときには出すというのが、私、本来の行政のあり方だと思いますが、いかがですか。

交通企画課長

非常口の工事につきましては、これから工事が着手されていきますので、当然ながら、今、委員がおっしゃられたことに関しましては、そういうことを考慮いたしましてやっていきたいと考えています。

鈴木委員

行政のおっしゃっていることが余りわからない。私は、そういうことをしつかり入れた形で、責任は神奈川県としてもあつて、その情報が神奈川県から出さなければならないのではないかという要望だけ言って終わりにします。